

評価区分
A：順調に進んでいる。
B：おおむね進んでいる。
C：進捗が遅れている。
D：取組内容の見直しが必要。

平成28年度

上士幌町総合戦略施策検証シート

(平成29年6月9日現在)

1 地場産業で地域の活力を生み出すまち	P 1
2 子育て・教育の充実したまち	P 9
3 健康で安心して暮らせるまち	P 2 2
4 移住定住による人口減少をくい止めるまち	P 2 7
5 小さな拠点形成を目指すまち	P 3 0
プラス・ワン 上士幌町創生包括プロジェクト 上士幌版生涯活躍のまち	P 3 2

1 地場産業で地域の活力を生み出すまち

数値目標	基準値	目標値（H31まで5年間）	達成度(28年度末)
雇用充足	59人（H27調査）	59人	—
新規雇用創出人数	—	30人	0人 / 0%

◇移住施策と連携した地場産業の人材不足解消

KPI

無料職業紹介所の相談件数	300件	達成度(28年度末)	122件 / 40.7%
--------------	------	------------	--------------

実施予定事業	事業目標	達成度(28年度末)	取組内容	評価	成果及び今後の課題	担当課等
◇無料職業紹介所の開設 雇用確保への対策として、町内の雇用情報をとりまとめて広く発信。移住・定住の流れを生み出す可能性を高める	相談件数 300件	122件 (求人:66、求職:56) 40.7%	28年度実績 ・採用成立(9件)、企業勉強会(2/9)、WEBサイト等による情報発信 29年度 ・ジョブマッチング、企業勉強会、WEBサイト等による情報発信	A	・各種情報発信等により登録企業や相談件数も増加している。 ・今後においては人材のあっせんや希望企業の紹介を適切に行う必要がある。	町民課
◇重点道の駅「仮称バルーン」整備	新規雇用者数 15人	—	28年度実績 ・上士幌町交流・移住促進拠点基本計画策定完了 29年度 ・道の駅基本設計の実施	B	・町民参加による検討委員会及び委託業務との連携により、道の駅基本計画を策定した。 ・今後、基本計画の具現化を図るため、基本設計、実施設計、工事と段階的に進めていくとともに、運営主体となる「上士幌町観光地域づくり推進法人(DMO)」設立に向けた動きが重要となっている。	商工観光課

◇農林業の活力向上

KPI

農業生産法人数（H26年4月現在19件）	新規2件	達成度(28年度末)	1件 / 50%
新規就農・新規雇用の青年等	10人	達成度(28年度末)	0人 / 0%
青年等就農計画（平成27年4月現在2件）	新規3件	達成度(28年度末)	0件 / 0%
農業後継者の有配偶率	増加	—	—
上士幌町農商工連携補助事業によって商品化した件数	2件	達成度(28年度末)	1件 / 50%
バイオマスエネルギー地域利活用（農業：家畜糞尿、林業：木質チップ）	新規3件	達成度(28年度末)	0件 / 0%

実施予定事業	事業目標	達成度(28年度末)	取組内容	評価	成果及び今後の課題	担当課等
◇新規就農対策事業 本町の主要産業である農業の新規就農対策を推進し、農家戸数と農業者の確保を図る	新規就農人数 3件5人	0人	28年度実績 ・平成26年度より、経営譲渡による新規就農に向けて1名が従業員として勤務しており、引き続き勤務した。 ・新規就農希望者面談(2名) 29年度 ・28年度面談者1名について、農業経営改善計画の認定にむけ農委、農協、普及センターと連携して取り組む。	B	・1名が経営譲渡による新規就農にむけ順調に取り組んでいる。	農林課
◇家畜糞尿処理バイオガスプラントの導入による家畜糞尿処理対策への支援 ◇畜産業の大型化に伴う家畜糞尿処理対策と発生するバイオガスエネルギーの利活用	バイオガスプラント整備 3か所に対する支援 新規雇用人数10名	— —	28年度実績 ・バイオガスプラントの整備、運営に向け、(株)上士幌町資源循環センターが設立した。 29年度 ・バイオガスプラント整備に係る支援として、建設に係る経費の一部に対し融資を行う。 ・運営開始に向け新規雇用を行う。	B	・家畜糞尿処理対策が具体的に進んでいる。 ・バイオガスプラントからの副産物を利用した耕畜連携や新事業の創出に向け、関係機関による協議を行い早期実現に向けた検討を進める。	農林課
◇農業におけるアウトソーシング化への支援 地域農業の効率性・収益性向上と労働力の軽減	新規哺育事業への支援 新規雇用人数 6名	— —	28年度実績 ・哺育・育成センターの設立に向け、町内畜産農家に対する要望調査や先進地視察を実施した。 29年度 ・哺育・育成センターの設立に向け、上士幌町地域資源利活用推進協議会に設立準備会を立ち上げ、施設整備に向けた課題の整理、調査研究を行う。	B	・哺育・育成センター建設用地の確保。 ・関係団体との調整を図り、実現に向け協議・検討を進める。	農林課
◇家庭形成に向けた出会いの機会創出支援(農業後継者)		—	28年度実績 ①第23回北海道十勝農業青年との交流会(北十勝4町による実行委員会形式で大阪近郊の女性との交流会)を開催(11月25~28日) 2名参加、1名マッチング ②上士幌町農業青年カップリングパーティー(JA青年部と十勝管内の女性との交流会)の開催(12月18日) 8名参加、4名マッチング ③農業青年婚活交流会(JA青年部と札幌近郊の女性との交流会)の開催(12月2日) 5名参加、2名マッチング ④ALLとかち札幌交流会(清水、池田、足寄、陸別、本別、音更、士幌、上士幌による実行委員会形式で、8町の農業青年と札幌近郊の女性との交流会)の開催(1月28日) 上士幌町1名参加 29年度計画 ①上士幌町農業青年カップリングパーティー(JA青	B	・参加者のうち、マッチングした者もいることから、事業の継続と新たな取り組みを進める事で更なる発展が期待できる。 ・参加する青年の確保が難しい状況になっていることが課題である。	農業委員会事務局

			年部と十勝管内の女性との交流会)の開催(1~2月予定) ②農業青年婚活交流会(JA青年部と札幌近郊の女性との交流会)の開催(12月8日予定) ③A L Lとかち札幌交流会の開催(1月予定)			
◇森林整備計画の推進			28年度実績 ・上士幌町森林整備計画に基づき、町内の民有林(町有林を含む)において4つの森林経営計画(上士幌町1、十勝大雪森林組合3)を作成し、適正な森林整備を実施した。 29年度 ・引き続き、森林経営計画に沿って適正な森林整備を行う。	B	・伐採後に植栽されていない林地や、不在町民所有の山林が放置されていることが課題となっている。	農林課
◇公共施設における木質バイオマスボイラー導入	公共施設整備 新規雇用人数 2名		28年度実績 ・木質バイオマス導入可能性検討会議検討部会を開催し、導入の可能性について検討した。 29年度 ・導入の可能性について検討した結果、木質バイオマス導入については断念することとした。	D	・原料となる林地残材が、実際には林地にほとんど残っていない。 ・道内で大型木質バイオマス発電所の建設が相次ぎ、原料の調達が困難である。 ・施設整備に対する有利な補助事業が無い。 ・利用予定量のチップ製造・運搬にかかる労働力が非常に少ないため、雇用を生む産業とならない。 ・原油価格に大きく左右され、チップを利用することで、コストアップになってしまう可能性が高い。 ・上記課題から、現状では導入すべきではないとの結論に至り、木質バイオマス導入は断念することとした。	農林課

◇建設業の活力向上

K P I

建設業における求人	充足	達成度(28年度末) —
-----------	----	--------------

実施予定事業	事業目標	達成度(28年度末)	取組内容	評価	成果及び今後の課題	担当課等
◇社会資本整備の充実		当初予定の各整備事業は完了	28年度実績 ・道路改良舗装事業の実施(糠平北区8号線道路改良舗装事業、平和東7号線道路舗装事業) ・歩道改修事業(上士幌40号歩道改修事業) ・水道施設整備事業(居辺浄水場自家発電施設更新)	A	・今後も改良舗装の再整備や未舗装箇所の整備により安全な通行の確保を図っていく必要がある。 ・安全で安定した給水等を行うため、今後も計画的に施設改修が必要であ	建設課

			<ul style="list-style-type: none"> ・水道管布設整備事業（7箇所管路布設替整備事業） 29年度 <ul style="list-style-type: none"> ・道路改良舗装事業 2路線 ・道路舗装補修事業 3路線 ・歩道改修事業 1路線 ・水道施設整備事業（東部上水道取水施設改修居込浄水場自家発電施設更新） ・水道管布設整備事業 5箇所 		る。	
◇インフラの維持管理事業の推進		当初予定の整備事業は完了しているが、平成28年度8月の台風による被災箇所については一部継続事業として実施している	28年度実績 <ul style="list-style-type: none"> ・橋梁定期点検事業 60橋 ・橋梁長寿命化修繕事業 2橋 ・町道等維持管理事業（機械除草、路面整正、道路側溝等清掃） ・公共下水道事業（下水道長寿命化計画に基づき施設改修） ・災害復旧事業 29年度 <ul style="list-style-type: none"> ・橋梁定期点検事業 39橋 ・橋梁長寿命化修繕事業 2橋 ・町道等維持管理事業（機械除草、路面整正、道路側溝等清掃） ・公共下水道事業（下水道長寿命化計画に基づき施設改修） ・水道施設維持管理事業（東部上水道次亜鉛塩素注入設備更新） ・災害復旧事業（萩ヶ岡橋） 	B	・道路施設の老朽化や、台風等の大雨により、改修が必要な箇所が増加している。	建設課
◇建設業における人材育成に対する支援			28年度実績 <ul style="list-style-type: none"> ・季節労働者の失業期間中の就労対策として、雇用者数31名、作業日数9日間緊急雇用対策を実施。 ・十勝西部地区通年雇用促進協議会主催の事業者向けセミナーのPR（チラシ・広報誌） 29年度 <ul style="list-style-type: none"> ・季節労働者の失業期間中の就労対策として、明渠排水路内の雑木処理等を実施する。 ・無料職業紹介所事業による支援 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・季節労働者の就労対策が一定程度図られている。 ・今後においては、通年雇用化促進にむけ関係機関と連携を図る必要がある。 	町民課

◇商工業の活力向上

KPI

空き店舗等における新規開業や新たな利用	5件	達成度(28年度末) 1件 / 20%
新規商品開発件数（H26 4件）	延べ20件	達成度(28年度末) 4件 / 20%

実施予定事業	事業目標	達成度(28年度末)	取組内容	評価	成果及び今後の課題	担当課等
◇商工業者に対する資金支援			<p>28年度実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上士幌町中小企業融資条例に基づき、6件22,000千円の支援を行った。条例改正により平成29年2月から融資限度額の拡大と保証料の全額補給等の改善を図った。 <p>29年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上士幌町中小企業融資条例に基づき、資金支援を行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・商工業者に対する資金支援により経営安定が図られた。 ・商工業者の経営の安定化を継続的に支援していく必要がある。 	商工観光課
◇商店街活性化支援			<p>28年度実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上士幌ふるさと納税町民還元プレミアム商品券事業 プレミアム率：25% 販売日：平成28年6月18日～7月15日 販売額：60,748,000円（プレミアムなし） 購入者数：1,947人（995世帯） 参加店舗数：179店舗 回収店舗数：72店舗 交換率：99.25% ・歳末売り出し事業（10%還元セール） 売出期間：平成28年11月25日～12月25日 売上総額：93,300,000円 購入者数：1,483人 交換率：93.30% ・新春大売出し事業 売出期間：平成28年12月23日～1月20日 売上総額：37,054,022円 ・新春運だめしサイコロゲーム事業 開催日：平成29年1月2日 開催内容：ココアの無料提供、サイコロゲーム等 ・まちなか交流サロン事業 開設日：平成28年4月2日～3月27日 週2回 175日間 利用者数：1,225人 <p>29年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中元大売出し事業（10%還元セール） 売出期間：平成29年7月下旬～8月上旬 ・歳末売り出し事業（10%還元セール） 売出期間：平成29年12月 ・新春大売出し事業 売出期間：平成30年1月 ・新春運だめしサイコロゲーム事業 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・商店街活性化支援をすることにより商店街に賑わいが出た。 ・商店街の賑わいを継続的に支援していく必要はあるが、その事業の内容については、より効果的な事業を検討していく必要がある。 	商工観光課

			開催日：平成30年1月2日			
◇起業支援及び空き店舗対策の推進			28年度実績 ・起業支援及び空き家店舗対策の推進のために、商工会と協力して創業支援促進事業要綱を策定（平成28年4月1日施行）。 ・創業支援促進事業にて、1件3,000千円の支援を行った。 ・上士幌町中小企業融資条例を改正し、平成29年2月から新規創業者を融資対象とした。 29年度 ・起業希望者に対して、創業支援促進事業により資金支援を行う。	B	・創業支援促進事業より起業者の支援が図られた。 ・起業希望者に対して、創業支援促進事業等により支援を進める必要がある。	企画財政課 商工観光課
◇商工業者の後継者育成・雇用確保			28年度実績 ・後継者育成対策の推進のために、商工会と協力して創業支援促進事業要綱を策定（平成28年4月1日施行）。 29年度 ・後継者に対して、創業支援促進事業により資金支援を行う。	B	・後継者に対して、創業支援促進事業により支援を進める必要がある。	商工観光課
◇地域資源を活用した商品開発			28年度実績 ・上士幌町農林商工等連携・ビジネス創出促進事業により、地域資源を活用した新商品の開発に1件602千円の支援を行った。 29年度 ・地域資源を活用した新商品の開発に対して、資金支援を行う上士幌町農林商工等連携・ビジネス創出促進事業について、グループ申請を個人事業者でも申請できるように改善し、利活用促進を図る。	B	・地域資源を活用した新商品の開発に対して支援が図られた。 ・新しく地域資源を活用した新商品の開発をしていく人材を発掘する必要がある。	商工観光課

◇観光産業の活力向上

KPI

観光入込数：H26年360千人	415千人（15%増）	達成度(28年度末) 359.1千人 / △1.6%
-----------------	-------------	----------------------------

実施予定事業	事業目標	達成度(28年度末)	取組内容	評価	成果及び今後の課題	担当課等
◇インターネット不感地帯の解消促進 ・インバウンド等観光客誘客に求められる高度情報網整備			28年度実績 ・ナイタイ高原牧場レストハウス仮設店舗内にWi-Fi環境を整備し、インバウンド等観光客に対し充実を図った。 29年度 ・各施設での利用実態調査を実施する。	B	・利用実態を調査し、快適にインターネットを使用できる環境づくりを検討する必要がある。	商工観光課

<p>◇インバウンドを含む観光客誘致</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国人観光客の受け入れ環境整備、効果的な観光プロモーションの展開、情報発信の強化 ・滞在・体験型観光プログラムの開発、担い手となる人材の育成 ・老朽化した観光施設等のユニバーサルデザインに配慮した再整備 	<p>観光客入り込み数</p> <p>360千人(H26)→415千人(H31)</p> <p>15%増</p>	<p>△1.6%</p> <p>359.1千人</p>	<p>28年度実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光入込客数 359.1千人 <p>北海道全体を襲った台風の影響により、一時期主要な国道が寸断され入込客数の大幅な減少が予想されたが町独自の災害対策誘致事業により微減に留めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・滞在体験型観光について、体験に特化したパンフレットを制作(3000部)。町内で体験イベントを開催し新規体験メニューを30メニュー以上発掘した。 ・インバウンドプロモーションとして広域連携でタイの旅行博に出展しプロモーションを行った。 <p>29年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町全体の観光戦略を再度見直し、観光地域づくりのための「上士幌町観光地域づくり推進法人(DMO)」形成・構築に向けて検討を行い、入込客数増を目指す。 ・引き続き体験パンフの制作、体験イベントを実施。 ・インバウンドプロモーションについては、ターゲットを分析し、引き続き実施する。 	<p>C</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・天候不順や自然災害に観光客の動きが停滞したが、早い段階で対策を打つことにより、一定の成果が上げられた。 ・ナイタイ高原牧場レストハウス、道の駅供用を視野に、戦略的な観光施策を取組んでいく必要がある。そのために「上士幌町観光地域づくり推進法人(DMO)」形成・構築を図る必要がある。 ・体験メニューの発掘を進めているが、人材育成に力を入れていく必要がある。 ・インバウンドプロモーションについては、東南アジアを中心に戦略的にプロモーションを行う必要がある。 	<p>商工観光課</p>
---	--	-----------------------------	--	----------	---	--------------

◇企業誘致

KPI

新規雇用者数	30人増加	達成度(28年度末) 8人 / 26.7%
--------	-------	-----------------------

実施予定事業	事業目標	達成度(28年度末)	取組内容	評価	成果及び今後の課題	担当課等
◇企業誘致対策事業			<p>28年度実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・十勝製菓株式会社が旧北居辺小学校を工場として活用し、焼菓子の製造、販売を行うこととなった。町が窓口のとなり、総務省の「地域経済循環型交付金」に申請を行い、採択された。対象経費(施設の改修、設備の初期投資)について、国に合わせ町も補助を行った。(国3/4、町1/4) <p>29年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上士幌町の資源、暮らしやすさを首都圏にてPRするため、ニセコ町、中標津町との3町合同企業誘致セミナーを開催する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・28年度末で施設の整備、改修が終了。4月以降に従業員を採用し、6月以降に製造、販売に入る。ふるさと納税制度等を活用し、販路の拡大を支援する。 ・セミナー実施後の企業による現地訪問等につなげていく。 	企画財政課

◇地産品の消費拡大

KPI

特産品のレシピ開発	30品	達成度(28年度末) 21品 / 70%
-----------	-----	----------------------

実施予定事業	事業目標	達成度(28年度末)	取組内容	評価	成果及び今後の課題	担当課等
◇ふるさと納税特産品消費拡大プロモーション			28年度実績 ・新たに11品のレシピを開発し、クックパッド内の「かみしほろキッチン」に追加した。(開発したレシピ数の累計21品) 29年度 ・引き続き、新たなレシピ開発を進める。	A	・開発したレシピのうち2品がクックパッド内にて人気のレシピ入りを果たし、ふるさと納税の申込の増や、上士幌町のPR繋がった。 ・新たなレシピ開発により、「かみしほろキッチン」の充実を図り、また商品化や店舗においての提供を目指す。	企画財政課

2 子育て・教育の充実したまち

数値目標	基準値	目標値（H31まで5年間）	達成度（28年度末）
合計特殊出生率	1.61	1.90	H25～29の数値に基づきH31公表予定
学力・体力・体験		北海道トップレベル	P12に記載

◇子育て世帯における経済的支援の一体的実施

KPI

子育てしやすいと感じる人の割合47.1%（H27アンケート調査）	増加	達成度（28年度末）	－
認定こども園における待機人数（H27ゼロ）	維持	達成度（28年度末）	維持

実施予定事業	事業目標	達成度（28年度末）	取組内容	評価	成果及び今後の課題	担当課等
◇高校生世代までの医療費の無料化			28年度実績 子ども医療費助成事業受給者数 462名 子ども医療費助成金額 14,045,516円 29年度 引き続き継続して子ども医療費助成事業を実施する。	A	・子育て世帯の経済的支援により子育て不安解消につながっている。	保健福祉課
◇教育に係る保護者負担の軽減 ○幼児に係る保育・教育費の保護者負担の軽減 ・2km以上の遠距離通園者への補助 ○児童・生徒に係る教育費の保護者負担の軽減 ・就学援助 ・補助教材補助	保育料無料化 修学旅行経費の助成	保育料無料化実施	28年度実績 ・認定こども園の保育料無料化の実施。 ・通園総距離×20円 19名 補助金額1,637千円 ・就学援助（学用品費・給食費・新入学用品・PTA会費・体育実技費・修学旅行費等） 小学校児童 48名 補助金額 3,036千円 中学校生徒 26名 補助金額 2,499千円 ・補助教材補助 各小中学校児童生徒一人あたり2,000円分を各学校に配当 小学校児童 247名 補助金額 494千円 中学校児童 117名 補助金額 234千円 29年度 ・平成28年度と同様の事業を実施	B	・保育料無料化等による子育て世代への負担軽減により、移住定住促進と出生率向上、女性の就労意欲の向上に寄与している。 ・就学援助は、保護世帯のみならず準保護世帯等も対象としており、低所得者層の保護者負担の軽減が図られている。 また、早急な支援が必要な保護者に対しては、平成28年度より所得が確定する前に仮認定を行い支援している。 ・補助教材費補助により、保護者負担が軽減され、教材の充実により学習意欲が図られている。 ・修学旅行経費助成のあり方について検討していく。	教育委員会事務局
◇子育て支援・少子化対策建設助成金交付事業			28年度実績 ・新築住宅 13件 28,000千円 対象子ども 28名 ・中古住宅 1件 500千円 対象子ども 1名 29年度	B	・空家の活用等について検討が必要。	建設課

			・(想定) 新築住宅、中古住宅 30,000千円		
--	--	--	--------------------------	--	--

◇出産や子育てにおける安心の確保

KPI

育児短時間勤務を導入している事業所数	増加	達成度(28年度末)	—
--------------------	----	------------	---

実施予定事業	事業目標	達成度(28年度末)	取組内容	評価	成果及び今後の課題	担当課等
育児短時間勤務の推進			28年度実績 ・厚生労働省(北海道労働局)の情報を、広報誌を活用し周知 29年度 ・無料職業紹介所の「企業登録申請時」などの機会に情報収集、PR活動を実施	C	・無料職業紹介所に登録されている企業においては把握しているが全町的な実態把握はできていない。 ・今後、実態調査の方法について検討する。	町民課
地域で育む子育てサロンの開設			28年度実績 ※実績人数は述べ人数 認定こども園内に設置している「子育て支援センター」において、次の事業を実施 (就学前の子どもと保護者や妊婦が対象) 1. 親と子が安心して過ごせる居場所として、子育てに向き合うゆとりと自信を高める場の提供 <すくすく広場> 毎週月曜日 対象 0~2歳誕生日までの子どもと保護者・妊婦 実績 年間45回 大人167 子196 計363人 <なかよし広場> 毎週月・水・金曜日 対象 0歳~就学前の子どもと保護者 実績 年間182回 大人589 子744 計1,333人 2. 親子で取り組める製作や音楽リズム、外遊び等の提供 <なかよしチャレンジ> 月1回 第2金曜日 対象 0歳~就学前の子どもと保護者 実績 年間12回 大人58 子80 計138人 3. 妊婦同士や地域との交流の場所と機会を確保することで母親の孤立を防ぎ、出産後の育児不安の解消を図る <マミーズ広場> 毎月第1木曜日・第3金曜日 対象 妊婦 実績 年間19回 妊婦35人 4. 同じような月齢の子どもを持つ母親同士や妊婦同士の交流、子育て相談や情報提供などの機会を確保することで孤立を防ぎ、育児負担の軽減を図る <ベビーズ広場> 毎週木曜日	B	・認定こども園の最初の窓口である子育て支援センターとして、親子が安心して過ごせる居場所づくりに今後も努めていくとともに、認定こども園への架け橋の役割を担っていく。 ・保育料無料化に伴い、認定こども園に入園する児童が増加し、子育て支援センター利用者が減少していたが、移住者の増加や遊びの広場の時間延長を行ったことで、利用者が増加している。 ・認定こども園・保健師・子ども発達支援センターが連携を図り、要支援の児童や保護者への継続した支援を充実させていく必要がある。	教育委員会事務局

			<p>対象 0～1歳誕生日までの親子(第1子)・妊婦 実績 年間45回 大人142 子136 計278人</p> <p>5. 集団での利用が苦手な親子を対象に、個人または少人数で利用できる場の提供 <ちいさな広場> 毎週火・木曜日</p> <p>対象 0歳～就学前までの子どもと保護者 実績 年間121回 大人76 子105 計181人 ※参加者がいないことも多い</p> <p>6. 育児サークルの場に職員が出向き、育児相談や遊びの提供をして、子育てを通した仲間作りの応援をする <子育てサークル支援> 月1回 第2火曜日 実績 10回 大人44 子52 計96名</p> <p>7. センター来所時及び電話により子育てに関する様々相談に対し、育児不安解消を図る <子育て相談> 毎週月～金曜日</p> <p>8. あそびの広場に認定こども園栄養士を招き、子どもの食事に関する不安・疑問を軽減する <栄養相談・栄養講話> 栄養相談2回 ・栄養講話1回</p> <p>9. 認定こども園の給食やおやつを食べてもらうことで乳幼児期に適した食事やおよつ味の味や量などの内容を知ってもらう <ほろんランチ> 年3回 <ほろんおやつ> 年2回 大人14 子18 計32名</p> <p>10. 子育てに関する知識を学び、育児不安の軽減を図る 子育て講演の開催 <子育て講演会> 2回実施 <子育て講座> 1回実施</p> <p>11. 未就学年齢の子どもを持つ親子に、保育所を実際に利用し施設の雰囲気やあそび、生活などの体験をしてもらう <私立保育所開放日> 各私立保育所(3ヶ所) 年3回</p> <p>12. 育児疲れの解消、急病や継続的勤務・短時間勤務などの就労形態の多様化などに伴う一時的な保育に対する需要に対応する為、一時的な保育を実施することにより児童の福祉の増進を図る <一時保育>月～金曜日</p> <p>対象 1歳～就学前の子ども 実績 利用人数41名 利用日数32日 利用時間230H</p>		
--	--	--	---	--	--

			<p>13. 少子化・核家族化が進む中、仕事と育児の両立の為、地域において会員同士が育児に関する相互援助活動を行う事を支援する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安心して子育てができる環境づくり及び児童福祉の向上を図る <p><子育てサポート事業></p> <p>会員の登録制（依頼会員・協力会員・両方会員） 料金 30分300円（町より半額の助成） 実績 利用人数 48名 利用日数 27日 利用時間 24H 29年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度と同様の事業を実施。 		<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の要望を踏まえ、遊びの広場（すくすく広場・なかよし広場・ちいさなひろば）の時間を延長する。 	
病児・病後児保育事業の検討			<p>28年度実績</p> <p>町内医療関係者との協議 1回（保健福祉課）</p> <p>29年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病児・病後児保育を実施する管内の保育園、小児科医院の視察等を実施 ・音更町内小児科を視察 ・町内医療関係者と連携し、管内で病児・病後児保育実施個所の視察を実施し、具体的な検討を進めることとしている。 <p>※子ども・子育て支援計画～平成31年実施に向け検討</p>	C	<ul style="list-style-type: none"> ・費用対効果や人員配置等の課題整理が必要である。 ・集団保育の困難な期間、医療機関等に付設された専用保育施設において一時保育を進めることにより、子育てと就労の両立を図り、乳幼児の健全な育成に寄与できるよう、町内医療機関と共に、更に検討を進める。 <p>（病児・病後児保育に関する町内のニーズ確認、小児科医院がある近隣町との広域的な実施の検討、実施の場合の料金設定の検討等）</p>	教育委員会事務局

◇豊かな子育てを支える質の高い学力・体力・多様な体験機会の体系化

KPI

全国体力・運動能力、運動習慣等調査の平均記録（小学5年・中学2年実施）	北海道トップレベル	達成度(28年度末) 全国平均より上位の種目数 小学男 3/8 小学女 4/8 中学男 2/8 中学女 3/8 ※H27 小学男 2/8 小学女 1/8 中学男 1/8 中学女 1/8
全国学力・学習状況調査の平均正答率	北海道トップレベル	達成度(28年度末) 全国平均より上位の領域数 小学 10/15 中学 1/14 ※H27 小学 0/14 中学 4/15
地域資源を生かした体験活動の推進	北海道トップレベル	達成度(28年度末) 一部、類似事業の統合等、体系化を進めている。
地元からの上高進学率 38%（H23～27平均）	50%以上	達成度(28年度末) 31% / 62%（29年入学者）

実施予定事業	事業目標	達成度(28年度末)	取組内容	評価	成果及び今後の課題	担当課等
<p>◇学力・体力・体験の北海道トップレベルを実現</p> <p>○上士幌町子ども教育ビジョンの具現化 ～【「かみしほろ学園構想」(仮称)の策定】</p> <p>○幼児から高校まで一貫性のある教育プログラムの推</p>	<p>○全国学力・学習状況調査より（小学6年・中学3年実施）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来の夢や目標を持っている児童・生徒 	<p>※19ページに掲載</p> <p>《参考》事業目標の進捗状況</p>	<p>28年度実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育関係5団体（上士幌町小中高連携教育推進会議、上士幌町学校教育推進協議会、上士幌町特別支援教育振興会、上士幌町教育研究所、上士幌町複式教育研究協議会）を再編し、かみしほろ学園推進本部を設立。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・随時役員会において、各部会の取り組み状況を情報共有しながら事業を推進した。 ・各部会においても、担当者を設け事業に取り組むとともに、部会内の情報 	教育委員会事務局

<p>進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共通教材の開発、導入 ・地域総ぐるみのキャリア教育（一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な意欲・態度や能力を育ていく教育）支援 <p>○地域とともにある学校づくり「コミュニティ・スクール制度」の導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度から導入 	<p>小学校 89% 中学校 68% （H22～26 平均）→100% （H31）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業以外の勉強時間1時間以上の児童生徒の割合 <p>小学生 平日 43% 土日 51%（H22～26 平均）→80%以上（H31）</p> <p>中学生 平日 57% 土日 59%（H22～26 平均）→90%以上（H31）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝食を毎日食べている児童生徒の割合 <p>小学生 99% 中学生 93% （H23～26 平均）→100% 維持継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査の平均正答率→北海道トップレベル 	<p>全国平均より上位の領域数</p> <p>小学 10/15</p> <p>中学 1/14</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・かみしほろ学園推進本部の取組 <ul style="list-style-type: none"> ①役員会の開催（8回）。 ②かみしほろ学園推進本部だよりの発行（7回）。 ・連携教育部会の取組 <ul style="list-style-type: none"> ①ユネスコスクール（ESD）の指定に向けた取組。 ②漢字検定、英語検定、数学検定、PC検定の実施。 ③芸術鑑賞会の実施（小学校9/2、中学校9/13）。 ④中学校2年生を対象とした「カタリ場北海道」の出前授業を通じたキャリア教育の推進。 ⑤吹奏楽器の購入・修繕（上士幌中学校ティンパニー購入998,000円）。 ・研修・教育研究部会の取組 <ul style="list-style-type: none"> ①自己管理手帳「iBノート」の導入と活用（認定こども園シール帳、小学校ノート、中学校手帳、高校手帳、5月導入済み）。 ②家庭学習の手引き発行 ③ユネスコスクールの実践検討と授業力向上をメインとしたかみしほろ学園教育研究大会（町研）を実施。 ・特別支援・複式教育部会の取組 <ul style="list-style-type: none"> ①子育てサポートブック「アーチ」の作成と配布（発達支援センター利用者の他、希望者251名に7月配布）。 ・その他 <ul style="list-style-type: none"> ①秋田県東成瀬村教育視察の実施（日時：6/25～27、参加者8名）。 <p>29年度</p> <p>組織改編を行い、かみしほろ学園を推進する。 平成28年度と同様の事業を実施</p> <p>28年度実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会委員合同委嘱式、4協議会、コミュニティ・スクール委員会の開催。 ・コミュニティ・スクール委員会・研修会の開催。 ・各小中学校、学校運営協議会の開催。 ・フォーラムへの参加 （全国参加者3名、北海道参加者8名） ・コミュニティ・スクールコーディネーターの配置。 上士幌小学校に常駐し、CSレター（カレンダーを含む）の作成、学校と地域の連絡調整等を行う。 	<p>共有をしながら事業を推進した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年間の取り組みの評価と検証を行い、ユネスコスクール、iBノート、サポートブック「アーチ」等の取り組みを軸に、一層、幼保小中高連携を進める。 <p>・各学校運営協議会において熟議を行い、コミュニティ・スクール委員会で情報共有やCSに関する理解促進を進めた。また、CSコーディネーターを中心に「ゆめ育応援団」の登録と活動を進めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CSコーディネーターの役割を強化し、各学校運営協議会の活性化と、「ゆめ育応援団」の機能の充実及び町民に対する情報発信を図りながら、地 	
--	--	--	--	--	--

<p>○課外活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部講師等の積極的な課外活動での活用 ・少年団から高校までの課外活動の環境整備と指導者の確保 <p>○確かな学力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少人数学級教諭の配置 			<ul style="list-style-type: none"> ・CSレター「きずな」の発行（12回）。 ・「ゆめ育」応援団の募集と登録 （現登録数 企業32、団体2、個人61） ・交通事故防止川柳コンテストの実施（79名179作品）。 ・上士幌小学校ゆめ育大人のつどいの開催 <p>29年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ・スクール委員会・研修会の開催。 ・各小中学校、学校運営協議会の開催。 ・フォーラムへの参加。 ・コミュニティ・スクールコーディネーターの配置。 ・コミュニティ・スクールレター「きずな」の発行。 ・「ゆめ育」応援団の募集と登録 <p>28年度実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校及び上士幌高校の吹奏楽部への外部講師招聘（8回） ・小中高の少年団・卓球部への、外部講師招聘（2回） ・吹奏楽部や卓球部などの活動で、中学校と高校、少年団と中学校の指導者同士が連携。 ・一流プロジェクト事業の実施。 太鼓、野球、バスケットボール、陸上、吹奏楽において一流の講師を招聘し、講演会や実技指導等を実施した。 <p>29年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校及び上士幌高校の吹奏楽部への外部講師招聘 ・小中高の卓球部への、外部講師招聘 ・吹奏楽部や卓球部などの活動で、中学校と高校、少年団と中学校の指導者同士が連携。 ・一流プロジェクト事業の実施。 <p>28年度実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上士幌小学校1年と4年を2学級に分け、小1プロブレムの解消と児童一人ひとりと向き合える35人以下学級の実施による教育活動を推進（教諭2名配置）。 <p>29年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上士幌小学校1年・2年・4年・5年を2学級に分け、小1プロブレムの解消と児童一人ひとりと向き合える35人以下学級の実施による教育活動を推進（教諭4名配置）。 	<p>域総がかりで子どもを育む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かみしほろ学園本部、連携教育部会を中心に、事業を進める一方、一流プロジェクト事業を活用し、高い技術を持つプロ選手等の指導等を受ける機会を創出した。 ・現在の連携を維持しながら、さらに多くの課外活動で、外部講師の活用も進めながら、少年団と小学校、中学校と高校等の連携を図る。 ・一流プロジェクト事業により、技術の上達や目標の明確化を促す。 <ul style="list-style-type: none"> ・少人数学級教諭や学校教育推進支援教諭・専科教諭の配置による体制の整備により、きめ細かな学習・生活の指導が実施できている。 	
---	--	--	--	--	--

<ul style="list-style-type: none"> ・チームティーチングによる習熟度別指導の実施 			<p>28 年度実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上士幌小学校 2 年生、3 年生の学級に学校教育推進支援教員を各 1 人配置し、習熟度別指導ができるような体制整備を図った（T T 2 名配置）。 <p>29 年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上士幌小学校 3 年生・6 年生の学級に学校教育推進支援教員を各 1 人配置（T T 2 名配置）。 			
<ul style="list-style-type: none"> ・小学校への専科教諭配置の検討 			<p>28 年度実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たに体育と音楽の T T 2 名を配置し、体幹強化を基盤とした体力向上や芸術分野における豊かな感性の育成と合わせ、各教員が子ども達一人一人と向き合える体制整備を図った。 <p>29 年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・28 年度と同様に実施 			
<ul style="list-style-type: none"> ・土曜学習の実施 			<p>28 年度実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一部業務委託を行い 2 3 回実施。 ※イングリッシュゲーム、サイエンス、料理教室等 <p>29 年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一部業務委託を行い実施 ※イングリッシュゲーム、サイエンス、自然体験等 		<ul style="list-style-type: none"> ・様々な学習や体験を通し、子ども達の土曜日の生活の充実を図った。 ・プログラムの充実等により参加者の増加を図るとともに、「ゆめ育」応援団をはじめとした地域人材の活用を図った事業を行う。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・放課後対策の充実 			<p>28 年度実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各小学校で「ゆめ育」応援団等と連携・協働して「放課後ほろんクラブ」を実施（20 回）。 ※羊毛クラフト、昆虫観察、中国の言葉・環境等 <p>29 年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・28 年度と同様に実施 		<ul style="list-style-type: none"> ・様々な分野の体験を提供し、子ども達の放課後の過ごし方の充実を図った。 ・コミュニティ・スクール、「ゆめ育」応援団等と連携・協働して実施した。 ・体験内容の魅力化を図り、地域の様々な人材と連携を進め、より充実した放課後対策を進める。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・外国語活動教育の推進 			<p>28 年度実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土曜学習（イングリッシュゲーム）を通じた英語学習の実施。 ・小中高等学校に外国語指導助手を派遣。上士幌小学校に週 3 日常駐させ、外国語活動のみではなく、その他の授業や放課後活動にも一緒に参加することにより、コミュニケーション能力の向上を図っている。 			

<p>・読書の推進</p>			<p>・認定こども園に外国語指導助手が常駐。私立保育所にも月1回ペースで出向き、外国語に親しむとともにコミュニケーション能力の向上を図っている。</p> <p>29年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・28年度と同様に実施 <p>28年度実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たに読書コーディネーターを週3日上士幌小学校に常駐させ、司書教諭とともに計画的に学校図書室の整備・充実に努めた。 ・上士幌小学校への可動式書棚（14台）の整備。 ・認定こども園、小中学校における図書の購入。 ・上士幌小学校、中学校における図書に貸出管理用バーコードを整備。 ・図書館、お話し会「カッコウ」等による読み聞かせの実施。 ・図書館の事業（巡回文庫、ブックスタート、図書館講演会等）の実施。 ・子どもの本の普及講座の実施（2回）。 ・子どもの読書アンケート調査の実施（アンケート対象：小2、小5、中2、子ども園保護者）。 <p>子どもの読書推進計画の達成状況について、児童生徒や保護者に対しアンケート調査を実施。</p> <p>29年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・28年度と同様に実施 <p>《その他学力向上に向けた対策》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査により子ども達の学力が二極化傾向にある。公教育のサポートとして生徒個々の学力に応じた個別指導の対策を進めていくために、「公営塾」設立の検討に向け、実績のある民間事業者に委託し、夏期講習と冬期講習を実施。 <p>講習会受講率</p> <p>上士幌中学校生徒 夏期 59% 冬期 61%</p> <p>平成29年度も同様に実施。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・読書コーディネーターを中心に、図書館と連携しながら、主に学校における子どもの読書推進を図った。 ・地域全体で、子どもの読書推進を図る。 	
<p>○体力の向上</p> <p>・スポーツ環境の整備</p>	<p>○全国体力・運動能力、運動習慣等調査の平均記録（小学5年・中学2年実施）</p>	<p>全国平均より上位の種目数</p> <p>小学男 3/8</p> <p>小学女 4/8</p>	<p>28年度実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町民テニスコート看板及びベンチ（9台）更新、少年野球場簡易野外ネットの設置等 ・町民マラソン大会、町民ソフトテニス大会、水中レク 	<ul style="list-style-type: none"> ・活用しやすい施設づくりを目指し、既存施設の整備を進めるとともに、各種スポーツ大会や教室を実施し、子ども達の体力づくりを進めた。 	

<p>・少年団活動、部活動の活性化</p> <p>○地域資源を生かした体験活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・郷土を学ぶ体験、自然環境を生かした体験、基幹産業に触れ合う体験 ・体験活動の単位化を検討 	<p>→北海道トップレベル</p> <p>○上士幌まるかじり体験学校（仮称）の開設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域資源を活かした体験活動の体系化 ・本町の自然環境を活かした体験活動を開発 	<p>中学男 2/8 中学女 3/8</p>	<p>リレーション祭り、ミニバレー大会ほか各種スポーツ大会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども向け水泳教室、初心者向けスケート教室ほか各種スポーツ教室の実施。 ・小中学生にぬかびら源泉郷スキー場のシーズンパスポートを交付し、スキー普及対策を図った。 <p>29 年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野外体育施設の整備。 テニスコート照明増設工事等を実施。 ・各種スポーツ大会の実施。 ・各種スポーツ教室の実施。 ・スキー普及対策事業の実施。 <p>28 年度実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少年団体験会の実施（4/10、参加者：23 名）。 ・スポーツ振興助成の実施（39 件）。 <p>29 年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少年団体験会の実施（4/23、参加者：37 名）。 ・スポーツ振興助成の実施。 <p>28 年度実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会教育、学校教育、観光等の各分野において、様々な地域資源を生かした体験活動の実施。 かみっ子ふるさと体感塾（4 回）、土曜学習、放課後対策事業における体験プログラム、自然探検クラブ（5 回）等の実施。 ・自然環境教育推進事業として NPO ひがし大雪自然ガイドセンターに委託し、認定こども園、小中学校において体験学習の実施（15 回）。 自然の宝さがし、はだしで歩こうほか ・上士幌高校において地域資源を生かした「上士幌学」の教科化を行った。（3 年生選択科目） 上士幌町及び十勝の自然、郷土史、特産品開発 3 年生生徒 18 名、年間 88 時数。 <p>29 年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会教育、学校教育、観光等の各分野において、様々な地域資源を生かした体験活動の実施。 ・体験の効果を客観的に捉える I K R 調査を行い、子ども達の変化・変容を測定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の町内スポーツ施設の整備を進める一方、集約化等全体計画の検討を進める。 ・各種スポーツ大会や教室の充実を図り、子ども達の体力づくりを進める。 <ul style="list-style-type: none"> ・色々なスポーツに触れる機会を創出した。また、全道・全国大会への出場者に対し、出場に係る経費の一部を助成した。 ・今後もスポーツ振興助成事業等を通し、少年団や部活動の活性化を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ・様々なプログラムで体験活動が実施され、子ども達が郷土の歴史や自然等について学び、郷土に対する理解と誇りを醸成する機会を提供した。 ・既に、実施されている体験活動を洗い出し、新たな体験活動の開発も進めながら、幼保小中高のつながりを意識し、発達段階に応じた体験プログラムの構築等、町全体の体験活動の体系化を進める。 	
---	--	----------------------------	--	--	--

<p>○子ども発達支援センター事業の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児からの適切な発達を促す取り組みの推進 ・途切れのない支援体制確立 	<p>○乳幼児からの適切な発達を促す取り組みを通じて、発達のアンバランスな子どもの軽減につなげる。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境教育推進事業として、認定こども園、小中学校において体験学習の実施。 ・上士幌高校において地域資源を生かした「上士幌学」の教科化。 <p>28年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談支援事業実施 ・発達相談 昨年度実績 48件 (子どもの発達・保護者支援など)。 ・関係者とのケース会議を必要に応じて開催。 ・就学前幼児の成長発達を促す全身運動を通し、身体の基本づくりと家庭での取り組みを支援する新事業「みに一ず」(幼児グループ活動)の実施 5名参加 ・通所支援事業(児童発達支援)「にこにこ教室」10名(昨年対比4名増加) ・通所支援事業(放課後デイ)「ユースクラブ」小学1年生～高校1年生26名(昨年対比7名増加)。 ・私立保育所・認定こども園・小中高校への定期的な訪問の実施。 ・関係者向け、町民向け、子ども向け研修会の実施。 ・心理士による検査、作業療法士による指導。 ・委託事業 北斗病院による指導 3回。 <p>29年度</p> <p>平成28年度と同様の事業を実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・相談事業は、担当者2名で取り組んでいる。通所支援事業に対して客観的に保護者の意向を確認する場であり、相談支援事業と通所支援事業を同じ事業所で取り組むメリットとデメリットがある。今後保健福祉課と共に、相談支援の在り方について検討が必要。 ・発達相談は、要支援対応の親子が多く、虐待予防という意識を持って取り組む必要があり、職員の専門性が問われている。 ・支援事業に対する対象者への周知徹底と参加奨励が課題である。 ・遊べる場所としては楽しい場という印象は持ってもらえているが、発達支援センター事業としてはまだ地域への浸透が図られていない。 ・放課後デイは、地域の居場所として毎日放課後の居場所となってほしいと希望者もあり、実施に向けてはセンターの体制整備が課題となる。 	
<p>◇魅力ある上士幌高等学校の振興支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動の支援による活性化 ・キャリア教育(一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な意欲・態度や能力を育てていく教育)の推進 ・学力向上、進学対策の推進 ・遠距離通学者や通学困難者の民間下宿、又は寮整備の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・地元からの上士幌高校進学率 38%(H23～27平均)→50%以上 ・定員80人の入学生確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・地元からの進学率 平成28年 27% 平成29年 31% ・入学者数 平成28年 60名 平成29年 80名 	<p>28年度実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上士幌高等学校振興会を通じた各種支援の実施。 ①地元入学生への入学準備金支給 ②通学費の全額補助 ③奨学金(在学生特待奨学金、大学等入学奨学金) ④各種検定料(漢字検定・英語検定・簿記等)補助 ⑤部活動補助(各部用具代・遠征費・保護者負担軽減・熱気球関係諸費 他) ⑥管内大学見学やカタリバ(現役大学生との交流)経費補助 ⑦講習会(公営塾)の業務委託(上士幌在住生対象) <ul style="list-style-type: none"> ・受講者 夏期21% 冬期30%受講 ⑧札幌予備校講習参加補助 他 	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・魅力ある選ばれる高校としていくため、振興支援策の見直しを行い、地元からの進学率向上と入学生の安定的な確保に結び付けていくことが課題である。 	<p>教育委員会事務局</p>

			29年度 ・振興策見直し（平成28年度からの主な変更点） ①通学全額補助を8割補助へ減額（H29入学者より） ②入学準備金の支給対象追加（土幌町）と支給額減額 ③新制服購入全額補助（H29入学者より） ④大学入学奨学金増額（H29入学者より） 他 ⑤講習会（公営塾）の受講対象地域の土幌町追加			
◇幼児から高齢者までが互いに学び育つ生涯学習センターを活用した世代間交流の促進（H28）	施設年間利用者数 44,500人（H26） （学童保育所・発達支援センター含）→84,500人（H29） H30以降各年1,800人増	施設面の整備は終了。 今後は、活用を進め利用者数の増加を目指す。	28年度実績 ・生涯学習センター改築工事の実施。 建築主体工事、電気設備工事、機械設備工事 工期：平成28年4月28日～平成29年5月15日 既存部分改修工事 工期：平成28年6月8日～平成29年6月30日（予定） ・生涯学習センター愛称の募集 選考の結果「わっか」に決定。 29年度 ・学童保育所、発達支援センター、生きがいセンター、図書館等の機能が集約された生涯学習センター「わっか」の供用が6月1日に開始された。今後は、「まちが町民が元気になる 集いや出会いあふれる ふれあいの場」を基本コンセプトに、子どもからお年寄りまでが生き生きと過ごせる世代間交流を促進する。	A	・生涯学習センター「わっか」の開館に向けた準備を進めた。 ・生涯学習センターの維持管理及び利用促進を進める。	教育委員会事務局

《参考》 事業目標の進捗状況（全国学力・学習状況調査 小学6年・中学3年実施より）

事業目標	過去5年間の平均	平成27年度調査結果	平成28年度調査結果	平成31年度目標
・将来の夢や目標を持っている児童・生徒	小学校 89% 中学校 68%	小学生 94.8% 中学生 71.8%	小学生 89.1% 中学生 71.4%	小学校 100% 中学校 100%
・授業以外の勉強時間1時間以上の児童生徒の割合	小学生 平日43% 土日51% 中学生 平日57% 土日59%	小学生 平日52.7% 土日73.7% 中学生 平日48.7% 土日53.8%	小学生 平日45.4% 土日49.1% 中学生 平日35.6% 土日40.4%	小学生 平日・土日共に80%以上 中学生 平日・土日共に80%以上
・朝食を毎日食べている児童生徒の割合	小学生 99% 中学生 93%	小学生 97.4% 中学生 92.3%	小学生 92.8% 中学生 88.1%	小学生 100% 中学生 100%

◇子どもの健やかな成長支援

KPI

妊婦相談実施率	100%	達成度(28年度末)	100%			
赤ちゃん訪問実施率	100%	達成度(28年度末)	100%			
乳幼児健診受診率	100%	達成度(28年度末)	99.2%			
実施予定事業	事業目標	達成度(28年度末)	取組内容	評価	成果及び今後の課題	担当課等
◇妊婦相談(H26 100%)	100%	100%	28年度実績 ・全ての妊婦と面談を実施(45人 100%) 29年度 ・全ての妊婦と面談を実施	A	・産前産後は個々に多様なニーズを抱えており、現在のサービスで対応できないものもあった。妊婦面談で個々のニーズを把握後、必要な施策を関係者で共有、検討していく必要がある。	保健福祉課
◇赤ちゃん訪問(H26 100%)	100%	100%	28年度実績 ・全ての赤ちゃんと保護者に対して訪問を実施(34人 100%) 29年度 ・全ての赤ちゃんと保護者に対し家庭訪問を実施	A	・産後は個々に多様なニーズを抱えており、現在のサービスで対応できないものもあった。赤ちゃん訪問で個々のニーズを把握後、必要な施策を関係者で共有、検討していく必要がある。	保健福祉課
◇乳幼児健診(H26 98.6%)	100%	99.2%	28年度実績 ・3~4ヶ月健診(31人/31人) ・6~7ヶ月健診(30人/31人) ・1歳6ヶ月健診(33人/33人) ・3歳児健診(34人/34人) 29年度 ・対象者全ての乳幼児健診を実施	A	・乳幼児期の健康や発達、育児を確認する機会として子育て関係者と連携し実施できている。	保健福祉課
◇子ども発達支援センター事業の充実 ・乳幼児からの適切な発達を促す取り組みの推進 ・途切れのない支援体制確立	乳幼児からの適切な発達を促す取り組みを通じて、発達のアンバランスな子どもの軽減につなげる		28年度実績 「◇豊かな子育てを支える質の高い学力・体力・多様な体験機会の体系化」の「○子ども発達支援センター事業の充実」と同じ内容のため、記載省略 29年度 平成28年度と同様の事業を実施	B		教育委員会事務局

◇命の尊さを確認し心豊かな成長と家庭形成に向けた支援

KPI

生教育モデルに基づいた認定こども園、小学校、中学校での授業の実施率	100%(H26 100%)	達成度(28年度末)	100%
学童・思春期に対する心の健康講座実施率(中学校・高校・保護者)	100%(H25 高校生実施)	達成度(28年度末)	33.3%
20歳から39歳まで女性有配偶者率	増加	達成度(28年度末)	-

実施予定事業	事業目標	達成度(28年度末)	取組内容	評価	成果及び今後の課題	担当課等
◇生教育事業 ・発達段階に応じた生教育の実施	生教育モデルに基づいた認定こども園、小学校、中	100%	28年度実績 ・中学校3回、小学校4回、年長児1回の生教育授業実	A	・授業内容は、自殺予防対策、禁煙予防など生教育以外内容も含まれてお	保健福祉課

	学校での授業の実施率 →100%(H26 100%)		施 (H28 8回/8回) 29年度 ・中学校3回、小学校2回(統合して実施)、年長児1回を継続実施		り波及効果あり。 ・今後も継続的に実施していくためには、生教育支援チームメンバーの確保が課題となっており保健事業等の場面で人材を確保していく。	
◇こころの健康づくり支援事業 ・学齢期・思春期に向けた心の健康づくりに関する知識の普及 ・関係機関と連携した相談支援体制の強化	学童・思春期に対する心の健康講座の実施率(中学校・高校・保護者) →100%(H25 高校生実施)	33.3%	28年度実績 ・自殺予強化月間に思春期の自殺予防をテーマとしたパネル展を開催。 29年度 ・発達支援センターとの共同開催による自殺予防に関する講座を実施	B	・H28年度は、一般向けに思春期の自殺予防等について普及啓発の機会を確保したが、講座は未実施であったため、関係機関との連携により実施していく。	保健福祉課
◇家庭形成に向けた出会いの機会創出支援			28年度実績 ・恋活Night in かみしほろの開催支援 商工会青年部、JA上士幌町青年部が主催となり、農商工業全般の後継者対策のため、独身男女の出会いの場を提供(場所:鉄板焼きTobachi) 参加者:男性12名 女性14名 29年度 ・取り組みの実施に応じて支援	B	成果:6組のカップルが成立 町内の独身男性にとって出会いの機会創出となった。開催後のアンケートから、参加者の多くはイベント開催に良い印象をもち、男女ともに貴重な交流の機会となった。女性側から、男性の出会いに対する真剣さが伝わってこなかったという意見も多かったことが課題となる。	企画財政課 商工観光課 農林課 農業委員会事務局
◇子育てを通じた男女共同の推進支援			28年度実績 ・カンガルー教室(親子のタッチケア教室) 参加延人数 ママ23人 パパ5人 ・マミーズプラザ(妊娠期教室) 参加延人数 ママ23人 パパ0人 ・「◇出産や子育てにおける安心の確保」の実施予定事業「地域で育む子育てサロンの開設」に記載。 29年度 カンガルー教室、マミーズプラザの継続	B	・子育て支援センター(認定こども園)における父親が参加してきている事業は「ベビーズ広場」と「なかよし広場」のみであり、センター全体の保護者参加の1%にも満たない程度の参加である。 ・子育て関係者で連携し、パパの参加しやすい事業や個別の働きかけの検討が必要。	保健福祉課 教育委員会事務局

3 健康で安心して暮らせるまち

数値目標	基準値	目標値（H31まで5年間）	達成度(28年度末)
健康寿命の延伸（不健康な期間の短縮）	【平均寿命－健康な期間の平均＝不健康な期間の平均】 (H25) 男性 81.84 歳－80.52 歳＝1.32 歳 (H25) 女性 86.88 歳－83.39 歳＝3.49 歳 ※厚生労働科学研究費補助金 「健康寿命における将来予測と生活習慣病対策の費用対効果に関する研究」より	男性 1.0 歳 女性 3.0 歳	(厚生労働省の推定値、国民生活基礎調査を基に算定するため今年度は算出できず)
要介護認定率	17%（H27年6月現在）	19.0%（H32年第6期介護保険事業計画値20.16%）	18.6% / 100%

◇健康管理の習慣化を促進

KPI

乳がん・子宮がん検診受診率	100%	達成度(28年度末)	36.2%
特定健診実施率	60%	達成度(28年度末)	44.0% / 73.3%
肥満（BMI25以上）の人の割合	28%	達成度(28年度末)	31.3% / 88.2%

実施予定事業	事業目標	達成度(28年度末)	取組内容	評価	成果及び今後の課題	担当課等
◇生活習慣病の発症・重症化予防の推進 ・特定健康未受診者への勧奨 ・健診結果説明会の充実 ・健診受診者へのスタンプポイント事業 ・食育に関する普及啓発促進	特定健康診査実施率→60%（H21～H25平均42.6%） 特定保健指導実施率→65%（H21～H25平均59.6%） 肥満（BMI25以上）の人の割合→28%（H25 29.3%）	特定健康診査実施率→44.0%（H26～H27） 特定保健指導実施率→49.6%（H26～H27） 肥満（BMI25以上）の人の割合→31.3%（H27）	28年度実績 ・個別通知や家庭訪問等により特定健診の普及啓発や受診勧奨を実施。 ・健診結果説明会、2次検査を実施し、健診結果をもとに個人の生活習慣改善へ向けた指導を実施。 ・健康マイレージ事業の実施（申請者 34人） ・広報で栄養コラムを掲載（6回） ・集団健診会場に休憩所を設置し栄養改善に関する情報提供を実施 29年度 ・特定健診及び20～30歳代の基本健診の無料化 ・特定健診委託先の拡大 ・2次検査対象者拡大 ・健康マイレージ事業の継続 ・栄養コラムや健診会場の栄養改善に関する情報提供の充実	C	・健診受診率が低下傾向にあるため、特定健診無料化等のPRを兼ねて家庭訪問等による個別勧奨を充実させる ・特定保健指導実施率が低下傾向にあるため、2次検査等のメニューを提供するなどし、指導率を向上させるとともに、検査値が改善していない者に対し、生活習慣改善のための専門的支援を強化する。 ・肥満の割合が増加しているため、栄養コラムや健診時休憩所の情報提供などを通して肥満予防に関連する情報を提供する。 ・健康マイレージ利用者が少ないため周知方法や実施方法の改善について検討する必要がある。	保健福祉課
◇がん検診受診促進事業（医療との連携） ・乳がん予防キャンペーン講演会の開催 ・乳がん専用PET検診費用の助成	乳がん・子宮がん検診（好発年齢）受診率→100%（H26 19.8%）	乳がん子宮がん検診受診率→36.2%（H28）	28年度実績 ・各種がん検診受診率 40～69歳 乳がん検診 39.5%	B	・乳がん、子宮がん検診はキャンペーン実施の影響で他の検診と比較して受診率が高い。	保健福祉課

	胃がん・肺がん・大腸がん 検診（好発年齢）受診率→ 20% (H26 17.0%)	胃がん・肺がん・大腸 がん検診（好発年齢） 受診率→16.8% (H28)	20～69歳 子宮がん検診 32.9% 40～69歳 胃がん検診 19.5% 40～69歳 肺がん検診 15.3% 40～69歳 大腸がん検診 15.7% ・乳がん専用ペット検診14名受診 ・ピンクリボン学習会・ウォーキング開催 延138 名参加 29年度 ・乳がん検診30歳代拡大 ・人間ドックの胃カメラ検診導入		・胃がん、肺がん、大腸がんの受診率 が低下しているため、周知方法やクー ポン券の活用等について検討し受診 率を向上させることが課題である。	
◇心の健康づくり推進 ・相談体制の整備 ・メンタルヘルスや自殺予防に関する普及啓発	自殺による死亡者数→0 人(年平均2人 ※H20 ～24)	※H25 データ未確定	28年度実績 ・心の相談日実施(延63人利用) ・職域に対するメンタルヘルス学習会開催 ・若年層向け自殺予防パネル展 29年度 ・心の相談日継続実施 ・自殺予防講演会開催(発達支援センターとの共催) ・自殺対策強化月間に相談場所周知パネル展実施	B	・相談日の開催により、心の健康に不 安を感じている者の相談機会を確保 できている。 ・壮年期や思春期など、各年代の特徴 に応じた普及啓発を実施してきてい る。今後も対象集団の特徴をつかみ各 種健康教育を計画的に実施していく。 ・自殺者の減少には多くの要因が影 響し効果ある	保健福祉課

◇地域包括ケアシステムの実現

KPI

小規模多機能型居宅介護利用者の登録者数	0人(H26末)→24人	達成度(28年度末)	19人 / 79.2%
まるごと元気アッププログラムへの延参加人数	15,600人(月65人×48週×5年)	達成度(28年度末)	2,156人 / 13.8%
地域活動支援センター等利用者数	13名(H26年 8名)	達成度(28年度末)	13名 / 100%

実施予定事業	事業目標	達成度(28年度末)	取組内容	評価	成果及び今後の課題	担当課等
◇地域医療を支えるための医療従事者等の確保 ・医師・看護師等の確保対策支援 ◇24時間365日を支える医療・介護体制の整備 ・救急医療体制の充実 ・在宅支援診療所の整備 ・医療・介護の連携 ・セラピストによる在宅リハビリテーション支援の実施 ・発達障がい児へのリハビリアプローチ ・介護職員初任者研修実施事業	医療機関等の数の維持 診療所2カ所、歯科医院 2カ所、調剤薬局2カ所 訪問診療件数 (町内医療機関2カ所合 計) 訪問看護件数(医療・介護 含む) 訪問・通所リハビリの利用 者数の増加 医療介護連携にかかる協 議会開催数→年3回(H2 8中に協議体設置)	維持できている 訪問診療件数 延1,394人 訪問看護件数 延122件 訪問リハビリ利用増 通所リハビリ利用増 協議体未設置	28年度実績 ・はげあん診療所の診療日数が週1回減少。 ・訪問診療件数(1カ所) 年間延べ 1,394人 ・訪問看護件数 訪問看護ステーション 延べ訪問件数51回※ ※本別ステーションによる訪問看護は医療で1人。 上士幌クリニック訪問看護 延べ訪問件数71回※ ※月に4回(半日)程度の範囲内で実施。 ・訪問リハビリ 実利用者数 4月9人→3月末13人 ・通所リハビリ 実利用者数 4月37人→3月末50人 29年度 ・ケアマネに対する訪問看護利用促進に向けた研修会 の実施。	C	・上士幌クリニックの訪問看護提供体 制が整ったが、頻度や曜日、時間の制 約があるため今後、利用拡大に向け協 議が必要である。 ・地域包括支援センターを核にして、 日常的な相談対応や関係機関との連 携は図れているが、それをよりよくシ ステム化するため、医療・介護連携の 確立に向けた協議体を設置する。	保健福祉課

			<ul style="list-style-type: none"> ・上士幌クリニックの訪問看護体制の整備に向けた協議。 ・医療介護連携協議体を設置し、年4回協議を行う。 ・医療介護連携に係る関係職員の研修 年1回実施。 ・住民に対する在宅医療・介護に関する講演会実施。 			
<p>◇介護度の維持及び重度化防止のための介護サービスの充実と利用促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 居宅・施設・地域密着型サービスの充実 ・ 介護サービスの質の向上 ・ 利用者負担への支援 	<p>介護度の改善率の上昇</p> <p>施設サービス利用者の割合 23.2% (H26 末) → 維持</p> <p>小規模多機能型居宅介護利用者の登録者数 0 人 (H26 末) → 24 人</p>	<p>要介護認定率 18.6%</p> <p>施設サービス利用者 21.3%</p> <p>小規模多機能型登録者数 19 人 (達成率 79.2%)</p>	<p>28 年度実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 要介護認定率は 18% 台を維持。 ・ 年間の要介護認定更新・区分変更者における介護度維持・改善率は 70.1 % ・ 要介護認定者の中の施設サービス利用者割合は減少 <p>29 年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 不必要な要介護認定をしないための住民説明充実。 ・ 医療・介護連携による小規模多機能型居宅介護の有効活用。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 要介護認定率の維持や施設利用者割合の減少が見られ、重度化予防は図られているが、利用者の状態に適した自立支援志向のケアプラン作成とサービスの有効活用が課題である。 	保健福祉課
<p>◇介護予防の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 健常時からの動機づけや生活習慣改善に向けた支援の強化 ・ 官・NPO・大学との協働事業の推進 (健康づくり・生きがいがづくり・人づくりに効果) 	<p>まるごと元気アッププログラムへの延参加人数 15,600 人 (65 人 × 48 週 × 5 年)</p>	<p>延参加人数 2,156 人</p> <p>達成率 13.8% (H27.10 月～)</p>	<p>28 年度実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 年度末の登録人数 63 人 (定員 75 人) ・ 参加者に活動的な方が多く、他のサークルや仕事等と併用しているため、参加率は平均 70% 台 ・ お元気度測定会 (9 月) の実施 (体力測定及び認知機能測定) 100 名参加。結果説明会 (10 月) に 75 名参加。 ・ 認知機能低下が疑われる者に対する二次測定会実施及び事後の相談対応実施。受診や活動等につなげた。 <p>29 年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ まる元の参加者を増やすため、積極的な周知を図る。 ・ 年 1 回のお元気度測定会の実施によって、心身機能の低下がみられる者を早期発見、早期対応を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ まる元参加により、要介護認定者の介護度の維持改善が見られている。 ・ 口コミで徐々に登録者拡大が図れてはいるが、参加者数が伸び悩んでいる。参加率の増加が課題。 	保健福祉課
<p>◇認知症になっても、住み慣れた地域で安心して暮らせる地域づくりを目指す</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 普及啓発及びパンフレット作成 ・ 認知症初期集中支援チーム検討委員会の開催 ・ 認知症ケアパス作成 ・ 高齢者の見守り体制の構築 	<p>認知症施策にかかる協議体の設置及び協議会開催数 → 年 3 回</p> <p>認知症初期集中支援チーム (専門サポート医等による対応 事例数) → 年 3 事例</p> <p>認知症ケア講演会の実施</p> <p>認知症カフェの数 → 1 か所</p>	<p>協議体未設置</p> <p>認知症ケアパス作成</p> <p>認知症講演会 1 回</p> <p>認知症カフェ未設置</p> <p>郵便局、新聞社等と見守り協定締結</p>	<p>28 年度実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 協議体は未設置 ・ 認知症地域支援推進員の配置 1 人 ・ 認知症初期集中支援チーム検討委員会の開催 1 回 ・ 集中支援チームによるサポート 3 事例実施 ・ 認知症ケア講演会の開催 1 回 参加者 52 人 ・ 認知症ケア関係者研修会の開催 1 回 参加者 25 人 <p>29 年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 集中支援チームによるサポート 4 事例 ・ 認知症に関する知識の普及啓発 サロン等での講座 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症ケアパスを策定し、認知症の状態像に応じた支援内容を関係者間で共有したり、住民への説明で活用できるようになった。 ・ 認知症施策に係る協議体の設置は難しい (体的に) ため、地域ケア会議やケース会議の場を利用して共通の課題を抽出し対策を検討する。 	保健福祉課
<p>◇住民のニーズに適応した隙間のない支援と住民による支えあい活動により高齢者が不安なく過ごせる環境づくりを目指す。</p>	<p>小地域ネットワーク活動等地域活動の数 → 各行政区に 1 か所</p>	<p>協議体は未設置</p> <p>～関係団体と設立のための検討協議</p>	<p>28 年度実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 協議体は未設置 ↓ 社協事業 (町補助) 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ 成果… 高齢者等福祉バスの運行経路拡大による足の確保 ○ 課題… 	保健福祉課

<ul style="list-style-type: none"> 福祉協力員制度創設事業（高齢者等見守り体制の構築） ◇買い物や通院、見守りを支援する仕組みの構築 緊急通報システム 除雪費助成事業 高齢者等福祉バスの運行 地域における互助活動推進（自主防災組織・サロン等） 元気高齢者による買い物代行サービスの実施 	生活支援にかかる協議体の設置及び協議会の開催数→年2回		<ul style="list-style-type: none"> 小地域ネットワーク活動助成4団体 小地域ネットワーク活動推進会議・研修会1回 15名参加 研修会参加助成 2名（帯広市） 小地域ネットワーク地域懇談会 市街地行政区長意見交換会 高齢者等福祉バス運行経路拡大 <p>29年度</p> <ul style="list-style-type: none"> 町と社会福祉協議会で町内会へ活動の実態調査を開始する予定。 高齢者等福祉バス運行経路拡大 		<ul style="list-style-type: none"> 法人間連携の強化 地域間連携の強化 新しい要援護者台帳登録システムの検討と整備 要援護者登録の拡大による見守り体制整備を関係団体や地縁組織と連携 買い物、通院、生きがい活動のための交通等の生活支援 	
<ul style="list-style-type: none"> ◇高齢者の住まいの確保 高齢者見守り付安心住宅の整備 住宅改修やリフォーム費用の助成事業 			<p>28年度実績</p> <ul style="list-style-type: none"> 住宅改修32件、うち上乘せ助成3件 <p>29年度</p> <ul style="list-style-type: none"> 高齢者の在宅生活を支えるため、必要な改修を行っていく 	B	<ul style="list-style-type: none"> 認知症や単身の高齢者が増加しているため、高齢者見守り付き安心住宅の整備が課題 	保健福祉課 建設課
<ul style="list-style-type: none"> ◇権利擁護センター機能の充実 成年後見制度をはじめとする権利擁護事業の利用促進 	<p>市民後見人養成研修の受講者数6人(H26年度)→15人</p> <p>権利擁護センター(法人後見)の成年後見制度受任件数1人(H27年8月)→5人</p>	<p>市民後見人養成研修は未実施。受講者数の増なく6人。</p> <p>権利擁護センターとしての成年後見受任は1人。</p>	<p>28年度実績</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会福祉協議会による法人後見への体制整備前に対応した事例については、権利擁護センターの職員が個人受任の形態で成年後見用務を実施した。その他権利擁護に関する相談対応について、地域包括支援センターと連携を図った。 <p>29年度</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民後見人養成研修の実施(近隣町との共同開催)により、法人後見(社会福祉協議会)の実施に備える。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 権利擁護センターに登録している市民後見人候補者は現在2名であるため、H29年度に実施する市民後見人養成研修により市民後見人候補者を増員確保し、支援を必要とする高齢者等に対して成年後見制度の活用を図りたい。 	保健福祉課
<ul style="list-style-type: none"> ◇生きがいづくり 高齢者等の外出の機会を増やし、生きがいとなる活動の機会と働く場を確保する 高齢者の居場所づくり(地域サロンの開催・まちなかサロン・サークル活動・老人クラブ活動など) 地域活動ボランティアの育成 元気高齢者の短時間就労の構築 	<p>65歳以上で週1回、各種活動の参加割合→70%</p> <p>福祉ボランティア登録人数(社会福祉協議会所管)→80人</p> <p>生きがい事業団(仮称)の設置→1か所</p>	<ul style="list-style-type: none"> 福祉ボランティア登録人数 79人 ボランティアポイント制度開始 登録数 29人 	<p>28年度実績</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本チェックリスト集計結果に見える「週1回以上の外出がある」人の割合 92.6% ボランティアポイント制度を12月より開始 生活支援体制整備に係る研究会の実施 7回実施 <p>29年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ボランティアポイント事業の運営主体を社協のボランティアセンターに移行して実施。 小地域ネットワーク立ち上げのモデル地域を作り閉じこもり等の実態調査からサロン立ち上げ、継続支援までサポートを行う。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ボランティアポイント制度を開始したことにより、高齢者の活躍の場が広がった。 支援が必要な閉じこもり高齢者を早期に発見するため、関係機関や町民と共に実態調査を行い、新たな小地域ネットワークの立ち上げを行うことが課題。 	保健福祉課
<ul style="list-style-type: none"> ◇障がい者雇用の促進・支援 地元企業への就労の理解 障がい者福祉的就労の場の確保 ◇国等による障がい者就労施設等からの物品等の調達 	<p>障がい者就労継続支援B型事業所の設置→1か所</p> <p>物品等の調達目標 2,000千円(1,501千円 H26・</p>	<ul style="list-style-type: none"> 就労継続支援B型事業所 1ヶ所 物品等の調達実績 1,679,279円 	<p>28年度実績</p> <ul style="list-style-type: none"> NPO法人が就労継続支援B型事業所を開設(平成28年11月)。その運営費を補助する。利用登録9名(28年度末)。 	B	<ul style="list-style-type: none"> B型事業所:事業所の支援員(人材)の確保及び利用実績向上による安定的な事業所運営が課題。 物品調達:工賃向上のため、施設等 	保健福祉課

<p>の推進</p>	<p>1,571 千円 H27) (現状:花苗・指定ごみ袋保 管・配送業務・花壇整備・ 管理業務など)</p>	<p>83.9%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・町が地域活動支援センター及び就労継続支援B型事業所から物品等を調達 <p>29 年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就労継続支援B型事業所の運営費を補助する。 ・同事業所が運営する生涯学習センター内カフェ及び清掃委託業務に要する物品導入を補助する。 ・就労支援事業の拡大等に資するため地域おこし協力隊を募集する。 ・町が障がい者就労施設等から物品等の調達 <p>平成 29 年度目標 4,020,000 円 (新規で生涯学習センター清掃業務を追加)</p>		<p>と協議し、実施可能な業務の確認作業を行う。</p>	
<p>◇町内障がい福祉サービス事業所（地域活動支援センター等）への通所利用促進</p>	<p>地域活動支援センター等利用者数(H26年8名)→13名</p>	<p>利用者数 13名 100%</p>	<p>28 年度実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規利用者 2 名増。 <p>29 年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・潜在的な利用ニーズの把握に努める。 	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・潜在的な利用ニーズの把握が課題。 <p>関係機関等との連携が必要。</p>	<p>保健福祉課</p>

4 移住定住による人口減少をくい止めるまち

数値目標	基準値	目標値（H31まで5年間）	達成度(28年度末)
転入・転出入口	転出超過250人（2010～2014）	転入155人 転出90人（転入超過65人）	転入超過115人 / 176.9% (H27年度 48人、H28年度 67人)

◇ひとの流れをつくる多様な就労拠点の整備と地域住民による受け入れ体制の構築

KPI

移住相談件数に対する移住件数の割合 1.5%（過去5年）	2.0%	達成度(28年度末) 1.7% / 40%
------------------------------	------	-----------------------

実施予定事業	事業目標	達成度(28年度末)	取組内容	評価	成果及び今後の課題	担当課等
◇テレワークの推進			28年度実績 ・平成28年度から上士幌版テレワーク推進事業を開始。株式会社トラストバンクより、活用申請の申し込みがあり、サテライトオフィスが設立された。8名のパート従業員が採用され、本社員が定期的に訪問している。 29年度 ・事業を継続し、新たな活用企業の誘致、受け入れを行う。	B	・株式会社トラストバンクのサテライトオフィス設立により、雇用の拡大につながった。2件目以降の利用促進に向け様々な周知方法を検討する必要がある。	企画財政課
◇企業版ふるさと納税（地方創生応援税制）の活用			28年度実績 取組みなし 29年度	C	・対象となる事業の国からの認定のほか、寄附していただく法人（企業）とのマッチングが要件として必要となる。	企画財政課
◇町民が上士幌町の魅力を伝える事業（道の駅整備等と連携）			28年度実績 ・上士幌町交流・移住促進拠点基本計画策定完了 29年度 ・道の駅基本設計の実施	B	・町民参加による検討委員会及び委託業務との連携により、道の駅基本計画を策定した。 ・今後、基本計画の具現化を図るため、基本設計、実施設計、工事と段階的に進めていくとともに、運営主体となる「上士幌町観光地域づくり推進法人（DMO）」設立に向けた動きが重要となっている。	商工観光課

◇かみしほろの発信力と価値の向上による交流と定住促進

KPI

イベント参加人数に対する相談件数割合 3.3%	4.0%	達成度(28年度末) 11.3% / 100%
ふるさと納税特典品として旅行商品を開発することによる入込客数	50組100人増加	達成度(28年度末) 0人 / 0%
特別町民証の発行による来訪者数	500組1,000人増加	達成度(28年度末) 0人 / 0%

実施予定事業	事業目標	達成度(28年度末)	取組内容	評価	成果及び今後の課題	担当課等
◇移住定住プロモーションの推進	移住・二地域居住者数 15名(H26)→20名/年	15名(H28)	28年度実績 移住・二地域居住者数 15名 ・北海道暮らしフェア(東京)64件 ・北海道暮らしフェア(大阪)61件 ・北海道暮らしフェア(名古屋)73件 ・上士幌暮らしセミナー①(東京)6件 ・上士幌暮らしセミナー②(東京)4件 ・4町合同暮らしセミナー(東京)4件 ・上士幌まるごと見本市(東京)225件 合計 相談件数 437件 来場者数 3,881人 29年度 継続的、効率的に上士幌町に住んだ際の優位性のPRを行っていき、移住・二地域居住者数を増加させる。 ・北海道暮らしフェア(東京・大阪・名古屋) ・上士幌暮らしセミナー 2回(東京) ・4町合同暮らしセミナー(東京)	B	・継続的、効果的に上士幌町の優位性等をPRしたことにより、移住・二地域居住の推進が図られた。 ・移住相談件数を増加させ、移住・二地域居住者を増加させるために、継続的に上士幌町に住んだ際の優位性のPRを行っていく必要がある。	商工観光課
◇ふるさと納税寄付者との交流の推進			28年度実績 ・平成29年2月5日(日)東京日本橋にて、「ふるさと納税感謝祭」と「上士幌まるごと見本市」を併催。寄付者を中心に949組、2,269名を招いた。 29年度 ・「上士幌まるごと見本市ツアー」を開催し、寄付者を上士幌町へ招く。	A	・ふるさと納税の特産品を中心とした食の魅力のPRにととまらず、まるごと見本市において、仕事や子育て支援といった移住、暮らしに関する情報を伝えることができた。 ・現地にて上士幌町の仕事や住環境を見て回るにより、ふるさと納税寄付者の移住につなげる。	企画財政課
◇移住・定住相談の充実	移住相談件数470件(H26)→600件(単年度)	834件 139.0%	28年度実績 移住相談件数834件 ・イベント時相談件数 437件 ・コンシェルジュへの相談 397件 29年度 プロモーション活動やホームページ・SNSの充実を図り、コンシェルジュへの相談件数増を図る。	A	・継続的、効果的に上士幌町の優位性等をPRしたことにより、移住・二地域居住の推進が図られた。 ・移住相談件数を増加させ、移住・二地域居住者を増加させるために、継続的に上士幌町に住んだ際の優位性のPRを行っていく必要がある。	商工観光課
◇ふるさと納税による交流人口増加対策			28年度実績 ・平成29年2月5日(日)東京日本橋にて、「ふるさと納税感謝祭」と「上士幌まるごと見本市」を併催。寄付者を中心に949組、2,269名を招いた。業種ごとの職業紹介や子育て、移住相談等のブースにおける相談件数は225件に上った。 ・ふるさと納税返礼品において、ぬかびら源泉郷におけ	A	・ふるさと納税の特産品を中心とした食の魅力のPRにととまらず、まるごと見本市において、仕事や子育て支援といった移住、暮らしに関する情報を伝えることができた。 ・「ぬかびら源泉クーポン」の平成28	企画財政課

			る宿泊やアクティビティに利用できる「ぬかびら源泉クーポン」の取り扱いを開始。 29年度 ・新たな滞在型の返礼品を検討中		年度累計申込件数 230件	
--	--	--	---	--	---------------	--

◇滞在や定住に柔軟に対応する多様な施設整備

KPI

生活体験住宅数	5棟(H26)→10棟(H31)	達成度(28年度末)	10棟 / 100%
生活体験モニター参加者数	36組94名(H26)→50組150名(H31)	達成度(28年度末)	63組151名 / 100%

実施予定事業	事業目標	達成度(28年度末)	取組内容	評価	成果及び今後の課題	担当課等
◇生活体験住宅等の充実 ・生活体験住宅の推進 ・民間賃貸住宅を活用した定住支援 ・多様な生活体験住宅の整備			28年度実績 ・生活体験住宅数 10棟 ※町設置～短期用4戸、中長期用4戸・NPO設置～中長期用2戸 ・生活体験モニター参加数 63組151名 ・定住促進賃貸住宅建設助成事業 受付21棟 47戸 助成予定額 56,000千円 29年度 ・生活体験住宅数が10棟から8棟となったことにより、生活体験モニター参加数が減少することから、生活体験住宅数の増加を検討する。 ・定住促進賃貸住宅建設助成事業 43戸 60,000千円(想定)	A	・中長期生活体験住宅を整備したことにより、生活体験モニター参加数の増加が図られた。 ・生活体験住宅の2棟が使用できなくなったことから、新たに生活体験住宅の増加を検討する必要がある。 ・民間賃貸住宅家賃が高額となっており、希望しても入れない状況があるため、入居希望者が安心して入居できる支援体制の検討をする必要がある。 ・定住促進賃貸住宅建設助成事業の効果の検証が必要となっている。	建設課 商工観光課

5 小さな拠点形成を目指すまち

数値目標	基準値	目標値（H31まで5年間）	達成度(28年度末)
転入・転出入口	転出超過250人（2010～2014）	転入155人 転出90人（転入超過65人）	転入超過115人 / 176.9% (H27年度 48人、H28年度 67人)

◇まちの整体（公共施設再編によるコンパクト化推進）

KPI

公共施設再配置	計画に基づく推進	達成度(28年度末)
---------	----------	------------

実施予定事業	事業目標	達成度(28年度末)	取組内容	評価	成果及び今後の課題	担当課等
◇多機能型生涯学習センターの建設（H28）			28年度実績 ・生涯学習センター改築工事の実施。 建築主体工事、電気設備工事、機械設備工事 工期：平成28年4月28日～平成29年5月15日 既存部分改修工事 工期：平成28年6月8日～平成29年6月30日 (予定) ・生涯学習センター愛称の募集 選考の結果「わか」に決定。 29年度 ・生涯学習センター落成式の開催（6/1） ・外構工事の実施。 工期：平成29年7月～12月（予定）	A	・新生涯学習センター「わか」の開館に向けた準備を進めた。 ・生涯学習センターの維持管理及び利用促進を進める。	教育委員会事務局
◇老朽施設の解体撤去補助			28年度実績 補助申請者20件に対して補助金を交付。 (交付総額921万円) 29年度 町内の老朽施設の解体撤去に係る費用に対して1件当たり上限50万円を補助する。予算額：1,000万円	A	・補助運用により町内の老朽施設の解体促進が図られている。 ・本事業は平成29年度で終了 町内の空家等の実態を把握し補助事業の継続を検討する必要がある。	町民課
◇小規模まちなか挿入型住宅整備			まちなか居住を進めるため老朽化している公営住宅の建替として、まちなか挿入型の住環境を整備する 28年度実績 ・住民説明会 ・実施設計 29年度 ・4棟8戸建設工事実施	A	・条例制定 ・移転対象者へ周知等	建設課
◇子どもや若者のための居場所づくり			28年度実績 「◇多機能型生涯学習センターの建設」と同じ内容のため、記載省略			教育委員会事務局

			29年度 ・学童保育所、発達支援センター、生きがいセンター、図書館等の機能が集約された新生涯学習センター「わか」の供用が6月1日に開始された。今後は、「まちが町民が元気になる 集いや出会いあふれる ふれあいの場」を基本コンセプトに、子どもからお年寄りまでが生き生きと過ごせる世代間交流を促進する。		
--	--	--	---	--	--

◇移動の利便性向上

KPI

農村部から市街地までの利便性に対する充足度（H27調査）	向上	達成度(28年度末)
------------------------------	----	------------

実施予定事業	事業目標	達成度(28年度末)	取組内容	評価	成果及び今後の課題	担当課等
◇地域交通ネットワークの構築			28年度実績 ・交通ネットワーク拠点形成に向けた基本計画策定 29年度 ・基本計画に基づき、交通ネットワーク拠点の設計及び工事を実施	A	・拠点を中心とした交通ネットワークの推進により、住民が安心・安全に移動等が可能となる。	企画財政課
◇国道等主要道路の整備拡充による第2次・第3次医療への移動時間の短縮	(関係機関に要請)		28年度実績 ・国及び北海道への要望を行った。 29年度 ・整備拡充の実現に向け、引き続き要望等を行う。	A	・国道の複線(片側2車線)化の実現には時間を要するが、継続した要望を行う必要がある。	企画財政課

◇地域活性化拠点の整備

KPI

新規雇用人数	15人	達成度(28年度末)	—
--------	-----	------------	---

実施予定事業	事業目標	達成度(28年度末)	取組内容	評価	成果及び今後の課題	担当課等
◇重点道の駅「仮称バルーン」整備		—	28年度実績 ・上士幌町交流・移住促進拠点基本計画策定完了 29年度 ・道の駅基本設計の実施	B	・町民参加による検討委員会及び委託業務との連携により、道の駅基本計画を策定した。 ・今後、基本計画の具現化を図るため、基本設計、実施設計、工事と段階的に進めていくとともに、運営主体となる「上士幌町観光地域づくり推進法人(DMO)」設立に向けた動きが重要となっている。	商工観光課

プラス・ワン 上士幌町創生包括プロジェクト 上士幌版生涯活躍のまち

数値目標	基準値	目標値（H31まで5年間）	達成度（28年度末）
上士幌版生涯活躍のまちによる移住	—	30世帯50人	—

実施予定事業	事業目標	達成度（28年度末）	取組内容	評価	成果及び今後の課題	担当課等
◇上士幌版生涯活躍のまち ・大都市高齢者の地方移住支援 ・地域社会との協働、スキルや知見の地域還元の推進 ・多様なプログラムや自主活動の構築により健康でアクティブな生活の実現 ・地域包括ケアによる継続的なケアの提供			28年度実績 ・委託事業により、全体構想検討、事業主体検討、地域包括ケア充実検討、移住希望者募集等を実施した。 29年度 ・事業主体（まちづくり会社）を設立し、生涯活躍のまちの取組みを推進する。 （主な取組み） ①地域包括ケアの充実 ア 24時間365日ケアの検討 イ 介護人材の養成・確保（初任者研修実施） ウ 医療介護情報の一元化検討 エ まちなか移動システムの調査 オ 健康増進センター、スポーツセンター等関連施設利活用検討 カ 総合相談窓口検討 キ 障がい者グループホーム検討 ②人材センター 仕事のマッチングにより、仕事の見つけやすい環境、働きやすい環境整備を行うセンターの設立 ③（仮称）生涯学習大学 中高年齢者が継続的に学び続けることのできる仕組みの検討（大学設立） ④まちなか空き家・空き地調査 まちなかの賑わいを増すための調査、活用方法検討 ⑤移住希望者募集 アクティブシニア向け住宅・優良田園住宅地等の入居者募集 アクティブシニア向け移住セミナー、相談会等の開催 生涯活躍のまち体験者募集、希望者による現地見学会開催	B	・委託事業による調査検討結果を踏まえ、町の基本構想策定作業を進めている。 ・事業主体（まちづくり会社）を早期に設立し、さらなる事業推進を図る必要がある。	企画財政課 保健福祉課

